

2010 **6**

10号

独立行政法人  
**国立病院機構**  
National Hospital Organization



Matsumoto Medical Center

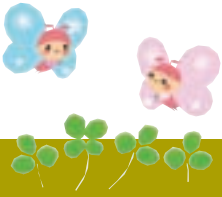
理念

いのちの尊厳を重んじ、質の高いやさしい医療を提供します

# まつもと医療センター

- ◆看護部長・事務部長着任のご挨拶……………2
- ◆まつもと医療センター地域医療連携室紹介……………3
- ◆医用画像管理システム導入のお知らせ……………3
- ◆松本病院 血液内科紹介……………4
- ◆登録医アンケート結果の報告……………6
- ◆「看護の日」のイベント……………8
- ◆看護学生フォーラムに参加して……………9
- ◆ロコモティブシンドローム 最近の診療トピックス……………10
- ◆徳田皮膚泌尿器科医院紹介……………11
- ◆お知らせ……………12

# Matsumoto Medical Center



## 看護部長・事務部長着任ご挨拶

10年ぶりの松本です。よろしくお願ひします。



看護部長  
うめだ むつこ  
梅田 睦子

この度、4月1日に国立病院機構茨城東病院から転任して参りました看護部長の梅田と申します。どうぞ、よろしくお願ひ致します。私は松本病院がまだ国立病院時代であった平成12年から2年間勤務しておりましたので今回は2回目となります。自分にとってはやりがいを感じながら楽しく働けたという思いをもっている病院です。

まつもと医療センターは、より円滑で充実した地域医療連携をめざしております。地域の先生方から患者さんをご紹介していただくためにも、また患者さんやご家族から信頼していただくためにも、看護部としての役割は、①救急体制の充実②質の高い看護の提供③人材育成と地域への貢献、と考えております。まず救急体制の充実、必要な検査や治療を速やかに開始するために、どんな時でも入院の受け入れをスムーズにすることです。そして、入院時からその患者さん

のゴールを見据えた退院準備や必要なケアを多職種が関わりチームとして行っています。次に質の高い看護の提供は、個々の患者さんの病態を正確に把握した上で医師の指示を十分に理解し確実に実施すること、また緩和医療や必要により社会資源の適切な活用等、その患者さんに必要で専門的なケアをタイムリーに実施することです。最後に、これらの医療や看護を実践していくのは看護職です。国立病院機構は「ACTY」ナース」という全国144施設共通の教育プログラムのもと、高い臨床看護実践能力を備えた看護職員の教育をしています。その上で緩和ケアや皮膚・排泄ケア、化学療法のケア等専門分野の能力向上をめざしています。また当院はすでに2名の皮膚・排泄ケア認定看護師を擁しています。私たちは病院のただでなく、地域での活動も自分たちの役割と考えております。微力ではありますが、まつもと医療センター看護部がお役にたてることがありましたら、なんでもさせていただきますかと思っております。お声を掛けていただければ幸いです。今後とも、よろしくお願ひ申し上げます。

願ひ申し上げます。

職員みんなの力をあわせて！



事務部長  
ひらた まさのり  
平田 真教

4月1日付で、脇坂前事務部長の後任として着任いたしました平田です。前任地は関東信越ブロック事務所で、2年間関東信越管内の国立病院の経営改善や内部監査等に係わらせて頂きました。生まれは新潟県柏崎市で、地元の新潟病院に就職したことから、現在の国立病院機構に引き続き国立病院・療養所での生活が始まりました。まつもと医療センターで勤務したことはありませんが、ブロック事務所や国時代の地方医務局勤務の中で、松本病院や中信松本病院には数回訪れる機会があり、また、同僚が当地の出身であったことから数年前までは家族で毎年夏のひと時をこの地で過ごしてきました(松本ほんぼんには参加したことがありません)。から、土地勘が全くないわけではありませんが、着任以来、大自然の雄大さに改めて感動している次第です。

さて、今年度は第二期中期計画の2年目であるとともに、当センターにとっては再生プランの最終年度という重要な節目となる年です。私ひとりでは大したことはできませんが職員皆様方からの協力を得ながら、当センターの今年度の目標である「一体化に向けた体制構築」、「医療の質の向上」、「経営の良化」に向け、米山院長のリーダーシップのもと全勢力を注いでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。



## まつもと医療センター 地域医療連携室

### 松本病院



鈴木地域医療連携係長  
丸山地域医療連携係員  
北野連携室長  
上原地域医療連携係長（看護師長）  
小林ソーシャルワーカー  
事務担当：二木 伊藤 野口

4月から松本病院、中信松本病院それぞれの連携室に、看護師長が配置されました。両病院連携室スタッフをご紹介します。

看護師が地域医療連携に関わることで、『医療知識を活かしたスムーズな地域連携』と『患者さんやご家族に寄り添った入退院の支援』に努めます。転院のご紹介、医療連携に関するご相談については看護師長が承ります。また、ソーシャルワーカーとの共同で、退院支援や診療所へのご紹介についても、今まで以上に密度の濃い連携を行っていききたいと思います。

どうぞ、よろしくお願ひ申し上げます。

### 中信松本病院



植竹ソーシャルワーカー  
大原連携室長補佐  
黒田地域医療連携係長（看護師長）  
中村地域医療連携係長  
事務担当：杉山 宮下

## 医用画像管理システム導入のお知らせ

去る4月1日より、当院において医用画像管理システム（PACS）を導入しました。今後はPACSにより、画像をコンピュータで表示可能なデジタルデータとして管理、保存します。院内のあらゆる場所に設置された画像ネットワーク端末で画像の閲覧ができるため、これまで以上に画像情報を有効活用することが期待されます。

また、院外への画像情報の提供に関してもデジタルデータによる提供が可能となりました。ご希望に合わせて対応いたします。

今後も適正な画像情報の提供に努めてまいります。ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

# 科 紹 介

松本病院血液内科では、血液の専門医が、血液疾患に関する診療にあたっています。  
今回は、血液内科についてご紹介致します。

いろいろな見方はあるのだろうけれど、質の高い医療を提供するということは医療者にとって最も重要なことと思われる。では、質が高いということをどのように立証することができるのであろうか。

一、最近五年間の血液内科の発表英語論文は、表1のごとく十篇ある。これは何を意味するかというと、我々血液内科のレベルは世界に通じるということである。

二、過去五年間に、表2のごとく信州医学会賞を三回受賞している。このことは、信州の医学レベルの向上にも貢献しているといつても他ならない。

三、最近三年間の疾患別入院患者数の推移をグラフに示す。当院に入院する血液疾患のトップ3は、悪性リンパ腫、急性白血病、多発性骨髄腫である。悪性リンパ腫と急性白血病が増加傾向にある。このことは、紹介が増加していることを示す。

表 1 最近 5 年間の血液内科の英語論文

- Mihoko Y, Kiyoshi K, Hiroshi S: Bradycardia-Tachycardia Syndrome Induced by Lopinavir-Ritonavir in a Patient with AIDS. AIDS 19: 1547-1553, 2005
- Machii T, Chou T, Suzuki M, Ohe Y, Katagiri S, Kitano K, Fujiyama Y, Izumi T, Shimazaki C, Nanba K, Ohashi Y, Kitani T: Phase II clinical study of cladribine in the treatment of hairy cell leukemia. Int J Hematol 82: 230-235, 2005
- Kitano K, Gibo Y, Kamijo A, Furuta K, Oguchi S, Joshita S, Takahashi Y, Ishida F, Matsumoto M, Uemura M, Fujimura Y: Thrombotic thrombocytopenic purpura associated with pegylated-interferon alpha-2a by an ADAMTS13 inhibitor in a patient with chronic hepatitis C. Haematologica, 91: 5-7, 2006
- Kitano K, Kobayashi H, Hanamura M, Furuta K, Ueno M, Rokuhara A, Tanaka E, Umemura T, Kiyosawa K: Fulminant hepatitis after allogeneic bone marrow transplantation caused by reactivation of hepatitis B virus with gene mutations in the core promoter region. Eur J Hematol 77: 255-258, 2006.
- Makishima H, Ito T, Momose K, Nakazawa H, Shimodaira S, Kamijo Y, Nakazawa Y, Ichikawa N, Ueno M, Kobayashi H, Kitano K, Saito H, Kiyosawa K, Ishida F: Chemokine system and tissue infiltration in aggressive NK-cell leukemia. Leuk Res 31: 1245-1253, 2007
- Ito T, Makishima H, Nakazawa H, Kobayashi H, Shimodaira S, Nakazawa Y, Kitano K, Mastuda K, Hidaka E, Ishida F: Promising approach for aggressive NK cell leukaemia with allogeneic haematopoietic cell transplantation. Eur J Haematol 81: 107-111, 2008
- Joshita S, Kitano K, Nagaya T, Kamijo A, Nakazawa K, Ishida F: Zygomycosis presenting as acute myocardial infarction during hematological malignancies. Int Med 47: 839-842, 2008
- Joshita S, Nakazawa K, Sugiyama Y, Kamijo A, Matsubayashi K, Miyabayashi H, Furuta K, Kitano K, Kawa S: Granulocyte-colony stimulating factor-producing pancreatic adenocarcinoma showing aggressive clinical course. Int Med 48: 687-691, 2009
- Nagaya T, Tanaka N, Kamijo A, Joshita S, Nakazawa K, Miyabayashi H, Komatsu M, Tanaka E, Kitano K: Importance of primitive neuroectodermal tumor as a differential diagnosis of CD56-positive tumor in adult. Int Med 48: 1267-1272, 2009
- Joshita S, Nakazawa K, Koike S, Kamijo A, Matsubayashi K, Miyabayashi H, Furuta K, Kitano K, Yoshizawa K, Tanaka E. A case of granulocyte-colony stimulating factor-producing hepatocellular carcinoma confirmed by immunohistochemistry. J Korean Med Sci 25: 476-480, 2010

(下線は松本病院医師)

表 2 信州医学会賞受賞の 3 論文

- 清水郁夫, 北野喜良, 城下智, 上條敦, 高橋寧史, 矢崎善一, 松林潔, 宮林秀晴, 熊谷美恵子, 青木雄次, 古田清, 市川和夫  
AIDSとB型肝炎変に合併した原発性滲出性リンパ腫  
信州医誌 54: 131-136, 2006
- 四本美保子, 北野喜良, 齋藤博  
長野県におけるHIV陽性者の診断契機と免疫不全進行度  
信州医誌 54: 183-188, 2006
- 城下智, 上條敦, 北野喜良  
ブレドニゾロン投与後CODOX-M/IVAC療法を施行したパーキットリンパ腫/白血病の3例  
信州医誌 56: 73-78, 2008

# 血液内

四、血液内科の診療は、医療

倫理に支えられている。当

血液内科医の北野と中澤は、

Bernard Lo著 “Resolving

Ethical Dilemmas: A Guide for

Clinicians” を翻訳し、「医療

の倫理」の翻訳を患者の心を

理解するために」（西村書店）

を出版している。これにより、

「アメリカ的医療倫理を日本

へのよう」に発展させるか」

（医療 63:242-247,2009）

などで新たな展開を試みて

いる。

五、外来診療体制も充実させ、

毎日診療している。いつでも

ご紹介いただければありがたい。

HIV専門外来も行っている。

六、移植治療の適応のある患者さ

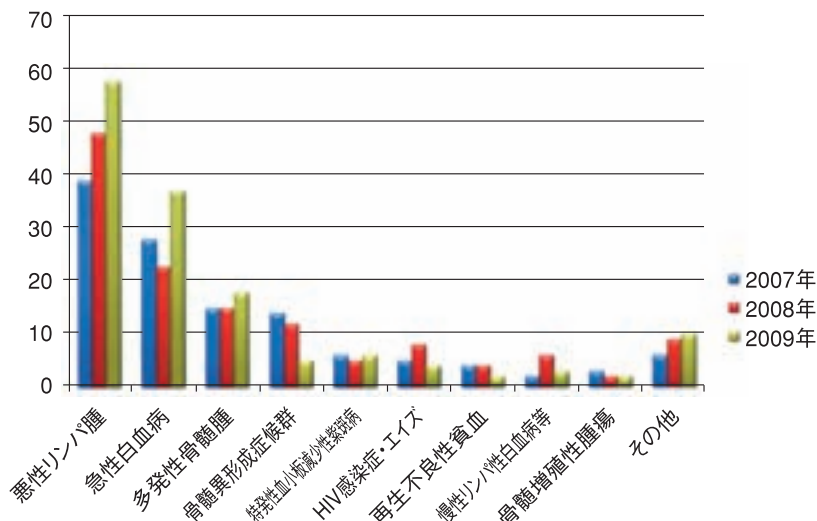
んに対しては、信大病院血液内

科と密接に連携している。

七、スタッフ一同、やさしい医療

の提供を心がけている。現在、

三名の血液内科医が診療を行っ



血液内科疾患別入院患者数



血液内科病棟スタッフ  
やさしい医療の提供を心がけています

ており、血液専門研修施設に指定されている。

血液内科  
北野 喜良

# 登録医アンケート結果のご報告

まつもと医療センター松本病院は平成二十一年十月十四日付を持ちまして、長野県より地域医療支援病院の承認を得ました。これは、ひとえに登録医の先生方のご協力の賜物と感謝しております。まつもと医療センターでは、地域医療連携の機能を高め、より満足していただける医療を実施するため、平成二十二年一月に登録医の先生方を対象としてアンケート調査を行いました。本稿でその結果をご報告いたします。

質問内容とその結果を円グラフにしてお示しいたします。大項目としては、一、地域医療連携室の機能について 二、患者紹介及び逆紹介について 三、病院の機能について で、5段階（①ほとんどできていない、②あまりできていない、③できている、④かなりできている、⑤大変よくできている）で回答いただきました。

地域医療連携室の機能については、紹介を受けた際の対応はスムーズに行われている結果でした。しかし、「電話の対応が悪い」という記載もありました。連携室の対応については、土曜日にも対応してほしいという要望が多くありました。紹介・逆紹介についての質問では、それぞれ③④⑤を合わせると概ね8割とほぼ良好な結果でありました。病院の機能については、医療機器の共同利用については不十分であり、開放病床についてはまだ知られていないという結果でした。今後期待することとしては、救急の充実が最も多い結果でした。

アンケートの結果をまとめますと、今後のまつもと医療センターの課題として、一、連携室の強化 二、土曜日・午前中の患者受け入れ 三、救急医療の充実 の3点が挙げられると思われました。今回のアンケートを参考に地域医療の充実に貢献できるよう日々努力していきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

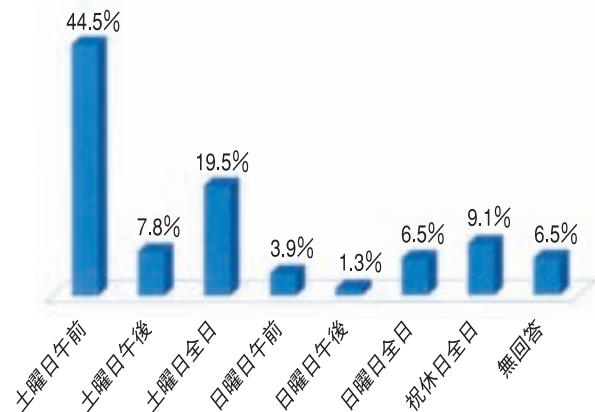
地域医療連携室

鈴木 幸次郎  
すずき こうじろう

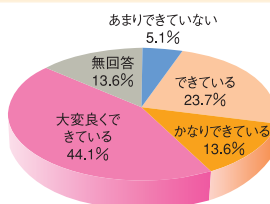
北野 喜良  
きたの きよし

## 1. 地域医療連携室の機能について

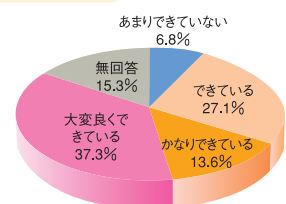
連携室が土曜・日曜・祝休日に対応できるとした場合、どの日を利用しますか。（複数回答）



紹介の際、スムーズな対応ができていますか。

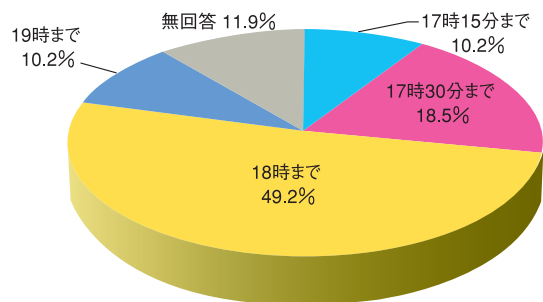


松本病院



中信松本病院

連携室の対応について、何時まで対応することが適切と思われますか。

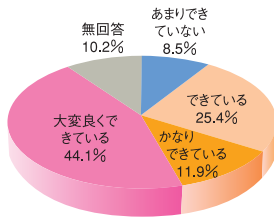




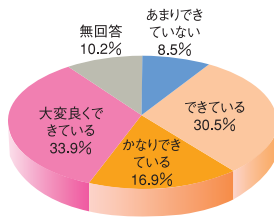
## 2. 患者紹介及び逆紹介について

紹介した患者さんについては、手術時や退院時などに適切な情報が送られてきますか。

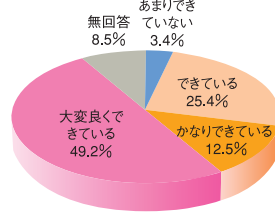
紹介状に対しては、書面による回答がきちんと送られてきますか。



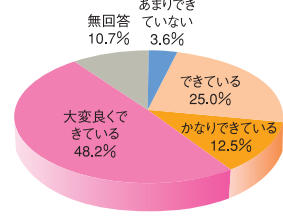
松本病院



中信松本病院



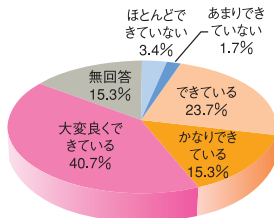
松本病院



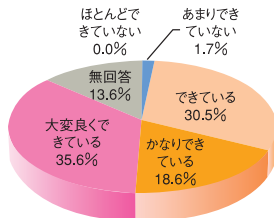
中信松本病院

緊急時に患者さんの受入などを要請したときも、すぐに対応して適切な処置がとられていますか。

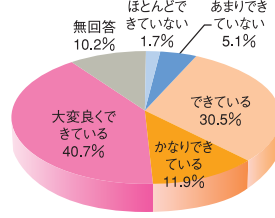
紹介した患者さんは、貴施設に戻っていますか。



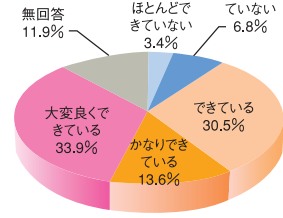
松本病院



中信松本病院



松本病院

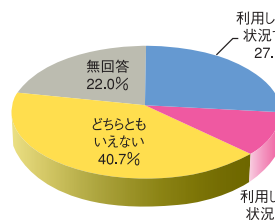


中信松本病院

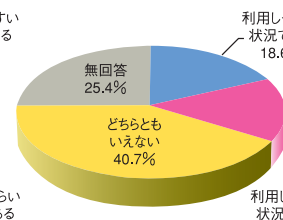
## 3. 病院の機能について

医療機器の共同利用についてお答えください。

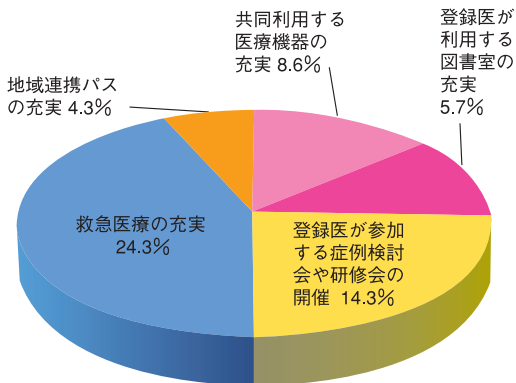
地域医療支援病院としての松本病院について、今後期待することは何ですか。（無回答を除く）



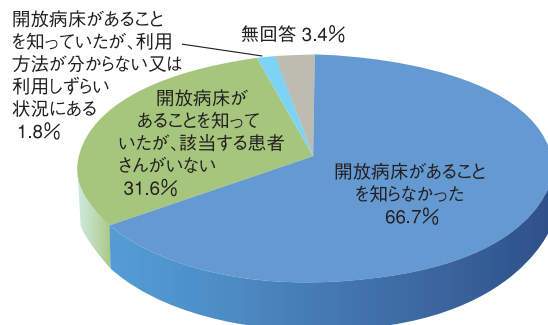
松本病院



中信松本病院



松本病院の開放病床についてお答えください。





# 1日街の保健室開催しました

## ～看護の日イベント～



フローレンス・  
ナイチンゲール

看護研究会会長

丸山 瑞恵  
まるやま みずえ



ナイチンゲールの生誕日の5月12日に「看護の日」が平成2年に制定されて、今年で20年目となりました。まつもと医療センターでは、5月8日(土)に塩尻広丘のショッピングセンター「GANA」の一階をお借りして、「看護の日」のイベントを行いました。今年はずっと医療センターとして2回目の取り組みでした。地域の皆様に喜んでいただけるように無料の「1日街の保健室」を計画しました。地域の皆様とふれあい、自分自身の身体状況について知っていただき、健康について理解と関心をもっていただくことを目的に行いました。当日は、看護部約20名、医師、臨床検査技師、管理栄養士、事務部の総勢30名が参加しました。保健室の内容として、看護師は血圧、身長・体重・体脂肪測定、血糖測定、がんの緩和ケアについての相談コーナー、検査技師は骨密度測定、管理栄養士は糖尿病・高血圧の食事療法、医師はそれぞれの測定値からの問題や日々の生活の中での医療相談を担当しました。そのほかに子供達にバルーンアートや看護師白衣体験コーナーを設け、翌日が母の日であることから、お子さんに白衣を着ていただき、記念写真を撮り、プレゼントしました。小さなかわいい白衣の天使がたくさん出来、わが子をほほえましくみ



るお母さんの姿も印象的でした。当日は天候にも恵まれ、開催と同時にたくさんの方が訪れ、3時間で約135名の地域の皆様に来場していただきました。来場者からは、「昨年もきました。毎年楽しみにしています」「医師と相談する機会があまりない中で、今回はいい勉強になりました」など、たくさんの方の喜びの声を聞くことができ、地域の皆様に健康について感心を持っていただくことができました。又、まつもと医療センターのことも知っていただける様「外来診療表」、「健康教室」や「がん講座」などの案内も配布しました。

今回の「看護の日」の取り組みのようにこれからもまつもと医療センターの力を地域の皆様に向けて発揮できるようにしていきたいと思えます。看護の日のイベントにご協力していただきました皆様方に、深く感謝いたします。

今回の「看護の日」の取り組みのようにこれからもまつもと医療センターの力を地域の皆様に向けて発揮できるようにしていきたいと思えます。看護の日のイベントにご協力していただきました皆様方に、深く感謝いたします。





# 看護学生フォーラム in 幕張

～まつもと医療センターを紹介してきました～

副看護部長 三崎 洋美  
みさき ひろみ

国立病院機構関東信越ブロックでは、毎年、院内の学生主催による「看護学生フォーラム」・午後は国立病院機構関東信越ブロック関内の病院が一同に行う就職説明会を、千葉県「幕張メッセ」で開催しています。

今年も、4月といってもまだ肌寒さを感じる4月23日に開催され、参加してきましたので、報告をさせていただきます。

第4回となる今年度のメインテーマは、「伝わる心 看護の力」でした。シンポジウムでは4校の発表があり、実習期間の中で出会った患者さんと向き合いながら、「看護学生として、できることは何か」「訴えが自ら出来ない患者さんと、どうしたらコミュニケーションがとれるのか」「患者さんの小さな変化から、豊かな感性で看護とは何かを考え、学ぼうとしている姿勢にあらためて看護のすばらしさを感じました。ある学生が「患者さんと、どのように関わりを持っていいのか悩んでいるときに、『看護師』と『学生の自分』の違いを改めて見たときに、看護師が患者さんの手を握って話しかけていることに気づき、学生も同じように手を握って声をかけたら、安心した表情を見ることができた」という発表がありました。学生は日常の看護師の後ろ姿から、教科書では学べない看護を、その感性で学んでいることに感動するとともに、実習病院としての責任も感じました。午後からは病院説明会ということで、まつもと医療センター北野副院長を団長に平田事務部長・梅田看護部長他総勢14名で参加しました。説明ブース内では、まつもと医療センターに「就職してみたい」「話を聞いてみよう」と大勢の（写真参照）学生がきてくれました。先輩ナースの4名は学生たちに声をかけ、まつもと医療センターをアピールしてくれていました。病院の紹介・職場の様子をスライドで紹介し、松本の山々の写真をカバーにした小さなメモノートは今年も好評でした。多くの看護学生が、まつもと医療センターに就職してくれることを願いつつ幕張を後にしました。



## リレー形式

# 最近の診療トピックス(18)

## 「知っているですか」 ロコモティブシンドローム

近年、介護を必要とする人や寝たきりになる人が急速に増加（この6年間でおよそ2倍）しているといわれています。その原因として「脳卒中」や「認知症」といった病気を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、約4人に1人は「関節の痛み」や「転倒などによる骨折」など、骨や関節、筋肉といった体を動かす「運動器」の障害が原因といわれています。こうしたことから要介護や寝たきりを防ぐためには「運動器の健康を守る」といった新しい考え方が必要となりました。

そこで、日本整形外科学会が「ロコモティブシンドローム（運動器症候群）」略して「ロコモ」という概念を提唱いたしました。これは、骨や関節、筋肉などの運動器の機能が衰えて「立つ」「歩く」といった動作が困難になり、要介護や寝たきりになる可能性の高い状態です。

ロコモティブシンドロームかどうかを確認する方法には、「ロコモーションチェック」略して「ロコチェック」があります。これらの7項目のうち1項目でも当てはまれば「ロコモ」です。

- 1、片脚立ちで靴下がはけない
- 2、家の中でつまずいたり滑ったりする
- 3、階段を上るのに手すりが必要
- 4、横断歩道を青信号で渡りきれない
- 5、15分くらい続けて歩けない
- 6、2kg程度の重い物をして持ち帰るのが困難である

7、家のやや重い仕事が困難である（掃除機の使用、布団の上げ下ろしなど）

ロコモティブシンドロームの主な原因として、次の5つの運動器の機能低下や疾患があげられています。  
①バランス能力の低下②筋力の低下③骨粗鬆症④変形性膝関節症⑤脊柱管狭窄症

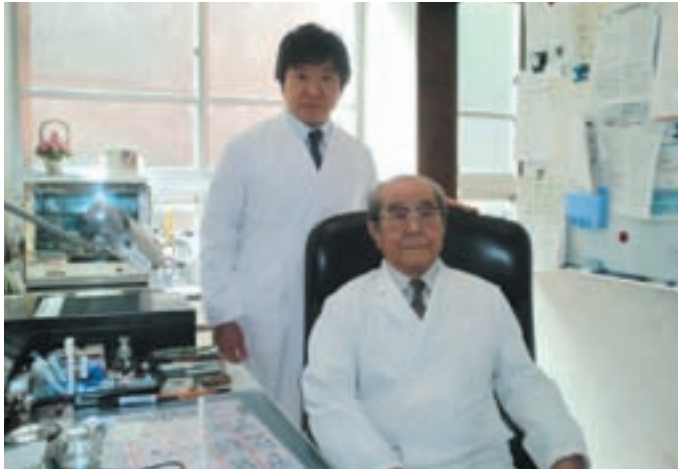
では、「ロコモ」の予防と対処法はどのようなものがあるのでしょうか？特に3つの疾患に対しては、鎮痛処置のようなそれぞれの疾患に対する治療が必要ですが、これらの病気を持っている方は他の病気を併せもっていたり、バランス能力や筋力低下をきたしていることが多いため、ロコモティブシンドロームの考え方では個別の病気以外にも全身の状態をみて対処することが必要となります。なかでも適度な運動である「ロコモーショントレーニング」略して「ロコトレ」が勧められています。代表的な運動としてダイナミックフラミンゴ療法と立ち座り運動（またはスクワット）があります。ダイナミックフラミンゴ療法とはその名の通り片足立ち運動ですがバランス能力の向上や骨粗鬆症の予防にもなるといわれています。また立ち座り運動は体を支える下肢筋力の増加に役立ちます。患者さんの状態に合わせて正しい運動が必要となりますので詳しい方法についてはパンフレット等も用意してありますので気軽に相談ください。

整形外科医長

若林 真司  
わかばやし しんじ



# 徳田皮膚泌尿器科医院 紹介



院長 **徳田 安章 先生**  
副院長 **徳田 安孝 先生**



〒390-0874 長野県松本市大手3-9-26  
TEL (0263) 32-1974 FAX (0263) 36-1687  
URL : <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~tokuda/index.htm>

## 診療時間

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祭日
午前9時から12時	○	○	×	○	○	○	×
午後4時から6時	○	×	×	○	○	○	×

※火曜日の午後は、検査・手術日で一般診療はお休みです。\*水曜日は休診です。

まつもと医療センター松本病院を退職して実家の徳田医院での診療を開始して早くも一年が経過しました。松本病院の皮膚科の後任には信州大より新倉冬子先生を迎え、私自身、今も時々松本病院へ診療のお手伝いに伺っており、大変、順調に引き継ぎができたと思っております。松本病院在任中は、米山院長をはじめとする職員の皆様に非常にお世話になり、大変感謝しております。また、この度はまつもと医療センターの広報誌に徳田医院の紹介文を掲載して頂けること。大変、有り難く思います。

さて、わが徳田医院ですが、正式には昭和45年頃より「徳田皮膚泌尿器科医院」と称しております。沿革としては、昭和12年に私の祖父の徳田安儀が10年勤務した松本市立病院（現信州大病院）を退職し、現在の医院の正面に皮膚科泌尿器科を中心とした診療所として開設しました。当時は県下に皮膚科や泌尿器科を専門とした医院は数えるほどしかなく、北は大町、南は木曾などから受診する患者さんが多数いらしたと聞いています。また、その頃は、人々の専門診療科を受診する気風がうすく、一般内科的な診療も行っていた様です。

現在父の安章が院長を務めております。父も松本病院のOBで昭和37年から39年にかけて、旭町時代の国立松本病院で皮膚泌尿器科医長を務めました。その後、信州大学皮膚科の高瀬教室で助教を務め、昭和51年から平成

6年までは母校の東京医科大学皮膚科にて主任教授を務めました。専門はアトピー性皮膚炎などの皮膚アレルギーと皮膚感染症です。

そして私ですが昭和62年に杏林大学を卒業し、同年、信州大学皮膚科学教室に入局しました。同教室で医員、助手、講師を務めた後、平成13年に当時の国立松本病院皮膚科医長に就任しました。その後、医療環境の変化から、国立病院機構松本病院、まつもと医療センターと病院の名称の変更を経験しながらも、個人としては、大変充実した診療生活を送ることができました。そのため、退職には後ろ髪を引かれる思いがありましたが、父が高齢になったこともあり、昨年4月に徳田医院の副院長として仕事を始めました。

徳田医院での診療ですが、予想以上に湿疹、ニキビ、イボといった肌のトラブル程度の相談が多く、多少、物足りなさも感じました。しかし、最近はプライマリケアとして、例えば疾患が重症化しないように指導することや、皮膚がんを生じさせない様な生活を勧めるなど、アンチエイジングと言い換えることもできる予防医学に軸足を移して研鑽を積もうと考えております。

また、時々遭遇する皮膚悪性腫瘍や紅皮症といった重症症例も、まつもと医療センターの病診連携システムの利用や信州大病院との連絡を密にすることで、治療に積極的に参加させて頂きたいと考えています。今後ともよろしくお願い致します。（徳田安孝）



# お知らせ

## 松本病院

### 勉強会

診療所の先生方とセンター医師合同の勉強会です。  
毎月第3木曜日 内科・外科勉強会  
松本病院第2カンファレンスルーム  
19:00～20:00

## 中信松本病院

### 健康教室

中信松本病院で行います。患者さん、ご家族どなたでも参加頂けます。事前申込は不要です。  
日時／6月22日(火)  
13:00～14:00  
骨密度測定(無料、先着20名まで)  
血圧・血糖・体脂肪測定  
14:00～15:00  
講演 テーマ／認知症について  
講師／神経内科部長 武井 洋一  
作業療法士 青木 哲也

## 松本病院

### 市民公開講座

日時／7月3日(土) 13:00から  
場所／松本病院会議室  
テーマ／「前立腺がんの診断と治療」  
小宮山 斎 先生  
「婦人科がんの予防と早期発見」  
堀内 晶子 先生  
「がん治療の日々を支える」  
植竹 日奈 先生  
～お金・介護・悩み～へのサポート～  
地域住民の皆さんを対象にした公開講座(無料)です。たくさんの方々のお越しをお待ちしています。

## 松本病院

### 人間ドック

メタボリック半日コース  
がん半日コース  
一般総合1日コース  
(アンチエイジングを加えた総合コースです)  
・松本病院 地域医療連携室  
・予約専用 TEL0263-86-22812  
FAX0263-86-22816  
・受付時間 8:30～18:00  
↑土・日・祝日は除く↓

## 中信松本病院

### 在宅医療研究会

当院では平成10年から、地域の医療福祉に関わる方々への情報提供とコミュニケーションの場として、在宅医療研究会を開催してきました。昨年度は諸事情によりお休みさせて頂きましたが、今年度は以下の日程で開催を予定しています。ご多忙の折とは思いますが、たくさんの方のご参加をお待ちしています。  
☆平成22年度まつもと医療センター  
在宅医療研究会開催予定  
7月8日(木) 栄養  
9月9日(木) リハビリテーション  
11月11日(木) 認知症  
平成23年1月14日(木) 内容未定  
(内容については変更ある場合があります)  
☆問い合わせ先  
まつもと医療センター 中信松本病院  
地域医療連携室・相談支援センター  
黒田(看護師) 植竹(ソーシャルワーカー)



## まつもと医療センター

第10号 平成22年6月1日発行  
発行人 院長 米山 威久  
松本病院  
〒399-8701 長野県松本市芳川村井町1209  
TEL.0263-58-4567 FAX.0263-86-3183  
中信松本病院  
〒399-0021 長野県松本市寿豊丘811  
TEL.0263-58-3121 FAX.0263-86-3190  
<http://www.matubyou.jp/>



(M)

### 編集後記

● 年度が変わり、新たなスタッフと共に歩み始めております。

今まで以上に地域のみなさんに信頼され親しまれるよう、明るく楽しい職場を目指してがんばりたいと思います。